

令和7年度 鳴海小学校学校努力点の取り組み

1 主題

主体的に学び続ける子 ～みんなで学びをコントロールしよう～

2 主題について

ナゴヤ学びのコンパスでは、目指したい子どもの姿として「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける姿」を設定している。「自律して学び続ける姿」には、「興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む姿」「学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ姿」「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿」が見られるとされている。そして、そのような姿を「ゆるやかな協働性」の下で実現していくことが求められている。本校では、令和3年度より3年計画で、「主体的に学び続ける子」を主題に掲げ、全ての子どもに対して一人一人の進度や能力、関心に応じた個別最適化された学び（自由進度学習）を提供することに取り組んできた。

初年度は、副題を「学びの引き出しを増やそう」と設定し、1時間の授業内における自由進度学習を実践した。そこでは、子どもが自ら課題や目標を設定し、一人で学ぶ・友達と学ぶ・教師と学ぶ・ICTを活用して学ぶといった学習方法の中から自分に合った方法を選択して課題解決をする姿が見られた。2年目は、副題を「みんなで一緒にレベルアップ!」と設定し、個別最適化された学びを実現するための手立てと、協働的な学びを実現するための手立てを設けて、2～3時間の自由進度学習を取り入れた授業づくりを行った。自由進度学習の取り入れ方については、「課題選択型」「時間設定型」「目標設定型」の3つの型から選ぶようにした。3年目は、副題を「学びをコントロールしよう」と設定し、①自由進度学習に入る前の一斉指導で基礎的な知識・技能、見方・考え方を習得させるための手立て、②友達と一緒に課題解決に向かわせるための手立て、③学びの自己調整力を高めさせるための手立てという3つの手立てを講じ、単元内における4時間程度、もしくは4時間以上の自由進度学習を取り入れた授業づくりを行った。

3年間の取り組みを通して、自由進度学習を行い、全ての子どもに対して一人一人の進度や能力、関心に応じた個別最適化された学びを提供することができるようになった。そして、昨年度は、3年間の研究の続編として、副題を「学びをコントロールしようⅡ」と設定し、①自由進度学習に入る前の一斉指導で基礎的な知識・技能や見方・考え方を習得させるための手立て、②ゆるやかな協働性を生み、それを効果的に生かすための手立てという2つの手立てを講じ、単元内における4時間程度、もしくは4時間以上の自由進度学習を取り入れた授業づくりを行った。

その結果、自由進度学習に入る前の一斉指導で習得した知識・技能、見方・考え方を生かしながら、子どもが自分で学習計画を立て、時には一人で、時には友達や教師と学習を進め、授業の終わりには学び方や学習内容についての振り返りをするというサイクルを基本とした自由進度学習に取り組む姿が見られた。自由進度学習の最中にいつでも相談できる「ホームグループ」を設けたり、一斉指導の中で対話スキル指導を重ねたり、分からない子を大切に作る雰囲気作りをしたり、話し合う内容を焦点化できるように発問したりすることで、効果的でゆるやかな協働を実現できることが分かった。

また、単元内の自由進度学習と一斉指導の構成についても、単元の冒頭数時間で一斉指導→数時間自由進度学習→一斉指導というパターンが一般的であったが、単元の冒頭数時間で一斉指導→冒頭で数分の一斉指導を毎時間行ってから取り組む自由進度学習→一斉指導というパターンや、単元の冒頭数時間で一斉指導→2時間分の自由進度学習を1コマと捉え、その冒頭20分で一斉指導を行ってから取り組む自由進度学習(3コマ程度繰り返す)→一斉指導というパターンも見られた。このように、習得させるべき知識・技能、見方・考え方次第で、配置の仕方を工夫することが効果的であることも分かった。

実際に、年度末実施のアンケートでは、「学校での学習に自分のペースで取り組んだり、自分の好きな方法で取り組んだりできるようになったか」という質問に対し、56%の子どもが「できるようになった」、35%の子どもが「まあまあなった」と回答した。このように、「自律して学び続ける姿」を実現することができるようになってきている。

一方で、自由進度学習に入る前の一斉指導で基礎的な知識・技能や見方・考え方を習得させるために学習内容を詰め込みすぎてしまったり、そこで習得させた内容が自由進度学習を各自で進めるためには不十分であったり、ゆるやかな協働を生むための対話スキル指導が不十分であったり、協働が生まれても効果的に生かすことができなかつたりする実践が見られ、課題が残った。

そこで、今年度は、4年間の研究の続編として、副題を「みんなで学びをコントロールしよう」と設定し、①基礎的な知識・技能や見方・考え方を働かせながら課題解決できるような見通しをもたせるための手立て、②ゆるやかな協働性を生み、それを効果的に生かすための手立てという2つの手立てを自由進度学習に入る前の一斉指導に講じ、単元内における4時間程度、もしくは4時間以上の自由進度学習を取り入れた授業づくりを進める。このようにすることで、主題に迫っていきたいと考える。

3 5年間の流れ

